

2005年5月25日

**報道資料**

ドイツ総合化学会社 BASF(ビー・エー・エス・エフ)ジャパン  
**「Dr.ブラバーの子供実験教室」を開催！**  
横浜、東京、四日市で計 460 人の小学生が対象



昨年 2004 年7月三重県四日市市で開催された子供実験教室の様子

BASF ジャパン(本社:東京都千代田区、社長:成尾友良)は6月～8月までの期間、小学生を対象に、身近な材料を使用した化学実験を通して化学や環境に興味を持ってもらうことを目的に、BASF ジャパンの化学者と一緒に実験を行う「Dr.ブラバーの子供実験教室」を開催します。今年で三回目となるこのイベントは、6月21日、22日に横浜、7月23日は三重県四日市、8月6、7、8日は東京(渋谷)で実施します。

横浜では「日本におけるドイツ年2005/2006」の記念イベントの一環として、東京横浜ドイツ学園と横浜市立茅ヶ崎小学校の4年生と5年生を対象に、ドイツと日本の子供達が一緒に化学の面白さを体験します。四日市市ではBASFの研究所/生産拠点で、近隣住民の皆さま

にBASFをより理解していただくことを目的に、3～6年生を対象に化学実験教室を実施するほか、工場見学会も実施します。東京では渋谷の東京児童会館で、小学校1～6年生の日本人や日本人以外の子供達を対象に、化学実験教室を英語と日本語で実施します。

BASFジャパンの子供向け実験教室は、企業の社会貢献の一端として地域との双方向のコミュニケーションを図る目的で、2003年に四日市市でスタートしました。昨今言われている「理科離れ」する子供たちに、遊びながら化学の実験を体験してもらい、少しでも化学や理科の楽しさを知っていただくことを目的の一つとしています。四日市市に関しては、近くで見る機会が少ないBASFの大型プラントを近隣に住む方々に実際に見ていただき、彼らの住む地域でどのような研究が行われ、どのようなものが生産されているかを知っていただくことも企業の責任であると考えています。

BASFは、本社のあるドイツや欧州各国はもちろんのこと、中国、韓国、シンガポール、インドなどアジア地域でも同様の化学実験教室を開催し、子供たちだけでなく保護者、教育関係者の皆様にも大変好評をいただいています。アジアだけでも、これまで3万人以上の子供達がこのイベントに参加しました。

**【本件に関するお問合せ先】**

BASF ジャパン(株) コーポレート・コミュニケーションズ  
田所(たどころ) TEL: 03-3238-2341/2376  
BASF ジャパン(株) 広報代理/ヒル アンド ノウルトン ジャパン  
山田 TEL:03-5776-7088

## 取材ご案内

# BASF の「Dr.ブラバーの子供実験教室」 東京横浜ドイツ学園取材のご案内 ご取材日程: 6月21日(火)9:30~

BASF ジャパンは 6 月 21 日~22 日、「日本におけるドイツ年 2005/2006」を記念して、東京横浜ドイツ学園の協力のもと、同学園と横浜市立茅ヶ崎小学校の 4 年生と 5 年生 160 人を対象に、「Dr.ブラバーの子供実験教室」を下記の要領で開催します。ご多忙中恐縮ではございますが、ご取材いただきたくご案内申し上げます。なお東京横浜ドイツ学園は 2004 年末、創立 100 周年を迎え、この実験教室は学園の記念事業の一環として行われます。

## 記

メディア向けご取材日程: 2005 年 6 月 21 日(火)  
実施場所(ご取材会場): 東京横浜ドイツ学園内 実験室  
神奈川県都筑区茅ヶ崎南 2-4-1(地下鉄仲町台駅徒歩 10 分)  
参加者(数): 東京横浜ドイツ学園と横浜市立茅ヶ崎小学校の 4 年生と 5 年生 96 人(予定)  
(21 日と 22 日の 2 日間では総勢 160 人の参加者を予定しています)

実験内容:

- ①汚れた水のリサイクル実験(活性炭を使って水を浄化します)
- ②高吸水性樹脂の実験(おむつなどに使われる高吸水性樹脂がどれだけ水を吸収できるか実験します)
- ③ビタミンの実験(うがい薬を使って果物や野菜、植物にどれだけビタミン C が含まれているか実験します)

ご取材日(6 月 21 日)のイベントスケジュール:

- 09:30-10:00 東京横浜ドイツ学園、BASF ジャパンからのご挨拶、プログラムの説明  
10:00-11:30 セッション 1(上記の①から③の実験を行います)  
11:30-12:30 ランチ休憩  
12:30-14:00 セッション 2(上記の①から③の実験を行います)  
14:30-16:00 セッション 3(上記の①から③の実験を行います)

- ※ 化学実験教室の指導は、子供たちに化学実験を指導するトレーニングを受けた BASF ジャパン(株)四日市事業所内研究所の若手研究者と東京横浜ドイツ学園の先生が行います。  
※ 実験はドイツ人と日本人の子供たち 4 人ずつ計 8 人で構成されるグループが 4 班に分かれて実施されます。

**誠にお手数ではございますが 6 月 10 日(金)までに次項の返信用紙にてご出欠をお知らせ下さいませようお願い申し上げます。**

### 【本件に関するお問合せ先】

BASF ジャパン(株) コーポレート・コミュニケーションズ  
田所(たどころ) TEL: 03-3238-2341/2376  
BASF ジャパン(株) 広報代理/ヒル アンド ノウルトン ジャパン  
山田 TEL:03-5776-7088

## 返信用紙

返信先： (FAX)03-5776-7077

ヒル アンド ノウルトン ジャパン(株) 山田 行

---

### BASF の「Dr.ブラバーの子供実験教室」 東京横浜ドイツ学園でのイベント ご取材日程:6月21日(火)

会場： 東京横浜ドイツ学園内 実験室

住所： 神奈川県都筑区茅ヶ崎南 2-4-1(地下鉄仲町台駅徒歩 10 分)

TEL： 045-941-4841(代表)

いずれかに○印をご記入ください。

ご出席

ご欠席

貴社名

貴紙・誌

ご芳名

TEL

FAX

**【本件に関するお問合せ先】**

BASF ジャパン(株) コーポレート・コミュニケーションズ

田所(たどころ) TEL: 03-3238-2341/2376

BASF ジャパン(株) 広報代理/ヒル アンド ノウルトン ジャパン

山田 TEL:03-5776-7088

## ご参考

### ■ BASF ジャパン株式会社について

本 社： 東京都千代田区紀尾井町 3 番 3 号 南部ビル  
創 業： 1949 年  
代表取締役会社長：成尾 友良  
従 業 員 数： 470 名  
資 本 金： 132 億円  
事 務 所： 東京(本社)、大阪、四日市(工場・研究所)、鹿島(工場)  
事 業 内 容：

中間体本部、ポリマー本部、特殊化学品本部、ファインケミカル本部の 4 つの事業部門により構成。四日市市においては 1988 年より生産活動を開始。プロセスケミカルを始め、THF、ポリTHF などのプラントを持つ。また四日市のテクニカルセンターでは、世界各国に展開する R&D のネットワークを駆使し、日本ならびにアジア地域のお客様のニーズに合わせた応用開発を行っている。現在は、製紙薬品、顔料、特殊薬品、ディスパージョン、エンジニアリング・プラスチック、化粧品、ビタミンのラボを持っている。

主要製品：

- 中間体本部：ジオール類、酸、溶剤・可塑剤、アミン類、無機薬品類、特殊中間体、電子材料ケミカル、触媒
- ポリマー本部：エンジニアリング・プラスチック、スチレン系ポリマー、熱可塑性ポリウレタン
- 特殊化学品本部：アクリル系ディスパージョン、製紙薬品、テクニカルポリマー、アクリルモノマー、顔料・コーティング、皮革化学品、特殊薬品
- ファインケミカル本部：動物用栄養(アニマルニュートリション)、化粧品原料・香料原料、医薬用原料

### ■ (本社)BASF について

BASF (ビーエーエスエフ)は「ザ・ケミカル・カンパニー(The Chemical Company)」を標語に掲げる世界の化学業界のリーディングカンパニーです。BASF の製品群は、化学品、プラスチック、高機能製品、農薬、ファインケミカルから原油や天然ガスに至るまで多岐にわたります。あらゆる業界のパートナーカンパニーとして信頼されているBASFは、高度なソリューションと高品質な製品によって、顧客のさらなる成功をサポートしています。BASF では、新技術の開発とそれらを使用することで、新たな市場を切り開いています。また、経済的な成功と環境保護、社会への責任を融合させることでより良い未来に貢献しています。2004 年度は約 8 万 2,000 人の従業員を雇用し、370 億ユーロ以上の売上高を計上しました。BASF の株式はフランクフルト(BAS)、ロンドン(BFA)、ニューヨーク(BF)、パリ(BA)、チューリッヒ(AN)の各株式市場において取引されています。同社のインターネットホームページアドレスは [www.basf.com](http://www.basf.com) です。BASF ジャパン(株)のインターネットホームページのアドレスは [www.basf-japan.co.jp](http://www.basf-japan.co.jp) です。

#### 持続可能な発展(サステイナブル・デベロップメント)：

BASF では、ビジネスでの成功は社会的責任ある行動と切り離して考えることができないという理念のもと、経済性よりも、環境保護や安全・衛生問題を優先させることが徹底されています。BASF は世界の化学業界の自主的なイニシアチブである「レスポンシブル・ケア」に則った活動を行い、「持続可能な発展」に大きく貢献しています。さらに製品とその生産プロセスをエコノミーとエコロジーの両面から分析する“**エコ効率分析法**”という独自の革新的ツールを開発しました。